

伊勢市バリアフリー

観光向上事業

宿泊施設のバリアフリー化に補助金を交付

この事業は、伊勢市の観光振興施策のひとつとして、高齢者や障がい者など身体の不自由な旅行者のマーケットを獲得することで、宿泊客を増加させることを目的とした、市単位で行う事業としては日本初の事業です。

支援メニュー

- ① **無料相談**：バリアフリー観光導入を宿泊施設の利用客数アップにつなげるため、あらゆる側面から一緒に考え、ご提案します。建物改修のご相談も含まれており、このご相談の利用が次の「改修補助」ご利用の条件となっています。
- ② **改修補助**：バリアフリー工事費用の2分の1(補助金交付上限400万円)を市から補助します。
- ③ **PR**
 - ・マスコミへの情報提供やHP等でのPRを積極的に行っていきます。
 - ・(実施期間：平成23年度と24年度の2年度)

●支援メニューについては、専門業者に委託し実施させていただきます。

伊勢志摩は「バリアフリー観光地」としてすでに知られています。

障がい者の社会進出と、高齢化によって体の不自由な旅行者が増えている中、伊勢志摩は現在、全国でもバリアフリーの進んだ観光地として知られています。

それは、高齢者・障がい者の観光客と地元とをつなぐシステムが、伊勢志摩には存在しているからです。このシステムを取り入れ、伊勢志摩地域では、すでに36軒の宿泊施設がバリアフリー対応を行っています。これを、伊勢市の観光振興に積極的かつ効果的に活用しようというのが当事業です。



施設の特徴を活かしたバリアフリー化ができます。

当事業では、専門業者と相談しながら、観光施設のために開発された**パーソナルバリアフリー基準**※に基づき、それぞれの施設やターゲットに合わせた効果的で最適な改装ができる仕組みを用意しました。また、マスコミへのPR等も事業の一環として行います。

伊勢志摩ではバリアフリー観光でのトラブルがほとんどありません。

障がい者の受け入れはトラブルの原因になるとされてきましたが、この**パーソナルバリアフリー基準**※による相談斡旋システムでは、過去10年間でトラブルは発生していません。逆に、それぞれの宿泊施設のバリアを明確にすることによって、障がい者受け入れに関するトラブルを回避する「リスク回避」の意味においても、バリアフリー化は有効です。

身体の不自由な人が含まれているグループや団体の割合は増加しています。

- バリアフリー対応を行うことにより、
- ① 受け入れ可能な顧客の範囲が広がります。
 - ② 逃していたグループや団体の受け入れを呼び戻せます。
 - ③ 「おもてなし」を具体的にアピールできます。

※勉強会を開催します

支援メニューの利用は、勉強会への参加が必須条件です。

- 伊勢会場 5月29日(火) 13:00~16:00
- 二見会場 6月26日(火) 13:00~16:00

伊勢市産業観光部観光企画課 電話0596-21-5565

※「勉強会」「パーソナルバリアフリー基準」の詳細は裏面をご覧ください。

勉強会

バリアフリー観光のコンセプトについて、また必要性について、ご理解いただいた上での支援となります。支援メニューのご利用を考慮される事業者様は、必ず勉強会にご参加いただく必要があります。(23年度にご参加いただいた宿泊施設様は必須ではありませんが、ルールの補足や新しいメニュー、成果紹介等ありますので、なるべくご参加ください)。

日時・場所 (開始 15 分以降は入室できません)

伊勢会場	二見会場
日時：5月29日(火) 13:00~16:00 場所：伊勢市役所 東庁舎4-3研修室	日時：6月26日(火) 13:00~16:00 場所：二見生涯学習センター 1Fホール

内容

1. バリアフリー観光とパーソナルバリアフリー基準
2. 伊勢市バリアフリー観光事業のコンセプト
3. 平成24年度の支援メニューについて
4. 23年度成果のご紹介 (23年度に当事業を利用された施設を一部ご紹介させていただきます)



日の出旅館様



ビジネスホテル山本様



海洋楼様

※パーソナルバリアフリー基準とは ?

【個人の満足に焦点を当てたバリアフリーの考え方です】

パーソナルバリアフリー基準とは、身体に障がいのある人や、高齢によって身体が不自由な人をはじめとするさまざまな旅行者の、嗜好や能力を基準にして対応しようという考え方です。

この考え方を今回の事業に当てはめると、宿泊施設様の呼び込みたい顧客層を絞り、それに沿った対応方法や改修内容を決めて行くこととなります。こうすることによって、宿泊施設の強みが活かされ、お客様も嗜好や目的、ご自身の障がいの状態や介添えの有無などの状況を考慮して、宿泊施設を選ぶことが可能になります。また顧客層を絞るため、比較的安価な費用で効果的な改修が行えると考えられます。

当事業では1軒の宿泊施設で全ての障がい者、高齢者に対応しようとするのではなく、それぞれの施設が得意分野を活かし、地域全体で様々なお客様を受け入れられる環境となることを目指します。